

病児室たより

6月

<<子どもの成長とあごの発育>>

桜の開花も終わり、近くの山々の雪も消え、春風に乗り次々に春の花が咲いています。新学期を迎え環境の変化と気温の変化から、体調を崩す時期です。子供にとっても心身の休息を十分にとり、せっかく整ってきている生活のリズムが、崩れないように大人も子供も注意が必要です。

コロナ禍に置いての病児室ご利用お断りに関して

- ・利用児童が新型コロナウイルス（COVID-19）感染症と確定した場合、または濃厚接触者となっている場合
- ・利用児童または家族が通園・通学する保育所・小学校等が新型コロナウイルス感染症による休園・休校の場合、またその場合解除に準じて対応いたします

<<ヘルパンギーナ（夏風邪）について>>



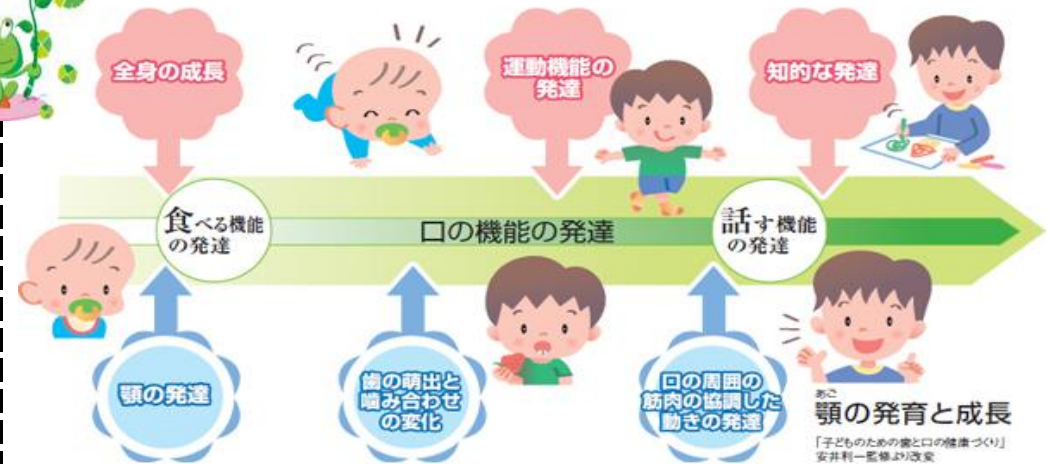
ヘルパンギーナは発熱と口の中の粘膜にみられる水疱性の発疹を特徴としその大多数はウイルスらの感染によるもので毎年5月頃から流行し始め、6～7月がピークとなります。年齢は4歳以下がほとんどで、1歳代がもっとも多いです。感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染で、2～4日の潜伏期の後、突然の39～40℃の高熱に続いて咽頭の粘膜の発赤が目立つようになり、上あごの粘膜やのどの奥に直径1～2mmほどの小水疱が出現します。小水疱は破れて浅い潰瘍を形成し、疼痛を伴うことがあります。発熱は2～4日間程度で解熱します。口腔内の疼痛のため不機嫌や哺乳障害、経口摂取不良を起し、乳児では脱水症をきたすこともあります。発熱時に熱性痙攣や、無菌性髄膜炎を合併するケースもありますが、ほとんどは予後良好です。症状が強い急性期にもっともウイルスが排泄され感染力が強いですが、回復後も2～4週間の長期にわたって便からウイルスが検出されることがあります。

通常は対症療法のみで、発熱や頭痛、口の中の水疱の疼痛などに対して解熱・鎮痛剤を用いることがあります。脱水に対する治療が必要なこともあります。水分摂取を心がけ、安静と栄養に気をつけることが大切です。

かみごたえのある食べ物をよく咀嚼すると、脳の発育を活性化して口、あごの正常な発育を促し、運動能力や身体のバランスを向上させます。健康な歯でよくかんで食べることが、育ち盛りの子供にはとても大切です。



あごの発育と成長



<<大切な乳歯の役割>>

一生のなかで乳歯を使う期間は約10年で、この10年間に乳歯は将来に向けてたくさんの大切な役割を果たします。

- よくかめると、運動能力が発達していきいきと元気な子どもに育つ
- よくかめると、顎が正常に発達し、きれいな歯ならびをつくる
- きれいな歯ならびは、正しい発音を育てる
- 健康な乳歯の下で、健康な永久歯が育つ

以上の事から、幼少期より習慣づけるために、時には、歯垢染色液で汚れやすい部分を確認し、子どもの自覚を促すのもよい方法ではないでしょうか？



“ 梅雨の時期体調管理に気配りを忘れずに。 ”

オープンハウスこんぺいとう・病児保育室